

地域防災のキーステーションづくりに着手

第一勧業信用組合

昨年、千葉県などを襲った台風15号、19号。自然災害が社会にもたらした爪痕は大きく、ライフラインの寸断やATMの停止など、地域に甚大な影響をもたらした。こうした中、地域経済を支える金融機関として、いち早く新たな防災対策を始めたのが東京都内を中心に店舗展開をする第一勧業信用組合（理事長 新田信行氏）だ。

第一勧業信用組合は、企業としてのBCP対策はもちろんのこと、取引先企業の安心、安全の確保、地域防災の拠点づくりとして、本店（新宿区四

谷）から新たな防災システムの導入を開始した。

再生可能エネルギー自給自足型「EPB・エマージェンシーパワーボックス」は、太陽光パネルなどの再生エネルギーや、ガソリン車、EVカーなど既存自動車が発電した電気をリチウムイオン蓄電池に充電し効率よく使用する再生可能エネルギーを利用した持続可能な防災システム。

多発する台風など自然災害による長期停電の際に自宅やマンション等での使用はもちろんのこと、企業や県庁、



EPB・エマージェンシー
パワーボックス
(第一勧業信用組合本店)

市役所、学校、病院などあらゆる場所で電気を使うことができる非常用蓄電池として急速に注目されている。



第一勧業信用組合 理事長 新田信行氏

建築家／東京大学教授・隈研吾先生激賞！

『DDDD「行動」だけが奇跡を起こす』

仕事の業務改善に役立つ枠組みとして有名なPDCAサイクルは、Plan（計画）→Do（実行）→Check（評価）→Act（改善）の4つを繰り返すものだが、『DDDD』は、よりシンプルに「Do」＝行動することの重要性を伝える。

同書では、すべての職業で成功している人の特徴として「決断」「行動」

そして『DDDD』ができていることを挙げている。人はDoすることで例えば「困ったな」「どうしよう」と考え、次のDoをする。その繰り返し。つまりDoの「頻度」と「量」が未来の「質」を左右する。だから人生でいちばん大切なのは、できるだけ「Do」自体を増やすことだと言える。と説く。

著者：杉山大輔

(すぎやまだいすけ)
ビジネスプロデューサー／
『私の哲学』編集長・インタビュアー



株式会社インターリテラシー代表取締役フェ
ウンダー・CEO
株式会社ジールアソシエイツエグゼクティブ
プロデューサー

自由国民社・税込み1540円